令和5年度　上田市立東小学校　　学校自己評価シート　　前期分（中間）報告

学校目標	めざす子ども像
よく気づき よく考え よく働き 進んで学ぶ子ども	1　自分で気づき　自分で考え　進んで学ぶ子ども(自主性) 2　よく働き　最後までやりぬく子ども(意志力) 3　手足を動かし　進んで体を鍛え　頭を働かせ　豊かに感じとれる子ども(豊かな情操) 4　一人一人のよさを認め　助け合える子ども(共生) 5　安全に気をつけ　進んで身体をきたえる子ども(健康安全)

今年度の重点目標（重点活動）

「つながっている ことが実感できる 幸せな学校」 ～響く「あいさつ」 輝く「笑顔」そして 「成長」と「自信」～	探究的な学習による 学びの質の高まりを 実感できる授業	○聴き合い　伝え合って　学びをつなげる ○じっくり考え しっかり書いて 学びをつなげる
	挨拶・思いが響き合い 人や物を大切にする 心が育つ学校	○あいさつと返事で人と人の心をつなげる ○よさやちがいを認め合いながらつなげる
	健やかでたくましい 身体に育つ安全で 活力がある学校	○体づくりで健やかさとたくましさにつなげる ○気づき清掃の推進で奉仕の心につなげる

総合評価

・授業では、友の考えと自分の考えを比べながら、よりよい納得解を見つけようとする子どもの姿が増えた。
・運動会・音楽会等の行事や清掃・児童会活動等では、自分の役割や分担に対して、責任をもって最後までやりぬこうとする子どもが増えている。
・あいさつに対して自分なりのめあてをもって取り組み、自己の成長を感じながら自信をもってあいさつができる子どもが増えている。
・自分とは異なる友の考えを前向きに受け入れ、自分の考えに取り込もうとする子どもが増えている。
・友だちを誘って体育館や校庭で体を動かして遊ぶ子どもが増えている。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
・学校長の年度当初の投げかけにより、人と人を「つなぐ」第一歩に「あいさつ」を位置付け、「あせらず・あきらめず」の一点突破を図りながら、全校で挨拶が響き渡る元気と活力のある学校を目指し、【あいさつステップアッププロジェクト】を実施している。 ・各学級担任（全教職員）も、しっかりと足並みを揃えて、子どもたちに対してこの「めあて・取組内容」を意識づける工夫した取組を展開しているため、子どもたちの「あいさつ」に対する意識が高まっている。		○			・自己肯定感が低い児童に対して、「周りの人たちとの比較」をするのではなく、以前の自分より、「これだけ頑張れた・成長できた」をどのように意識づけていく。 ・一人一人が「自信」をもって、「自らあいさつ」をし、その自己の姿を「自分ってあいさつを頑張っている」「自分って成長しているかも」という自己肯定感（笑顔・成長・自信）に結びつける具体的な方策を今後更に探っていきたい。
		○			
		○			

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	学び合い	聴き合い　伝え合って 学びをつなげる	・ペアやグループでわからないことや互いの考えを聴き合い、自分たちの考えを深め合う学習場面を設定しているか。 ・自分の考えを相手にわかるように伝えるために、わりやすい伝え方の指導をしたり、伝えようとする場面を設定したりしているか。	・基本の型を示していくことで、考えや思いの伝え方を学び、自分の考えを話せるようになってきた。 ・「聞く」姿は増えてきたが、相手の考えを受け入れながら「聴く」ための指導がまだ十分ではない。		○			・毎日、短時間のペアでの「伝え合い」「聴き合い」の場面を意図的に作り、スキルの定着を図っていく。「伝え合い」「聴き合い」のよさを振り返ることができる場面を設定していく。
		じっくり考え　しっかり書 いて　学びをつなげる	・「学習問題」「まとめ」を板書計画に位置づけ、授業の流れがわかる板書の工夫ができたか。 ・学んだ内容を書いたり、学び方を振り返ったりする時間を確保し、子どもの考えの変容や定着状況を確認しているか。	・学習課題を据えて、構造的な板書や授業展開を心がけたことにより、意欲的に学習に取る組む子どもたちが増えた。振り返りの時間をあまり確保できなかった。		○			・Chromebookを活用した授業で、自分の考えを入力し、他の子どもたちと共有したり、他の子どもたちの考えから自分の考えが変容したことを振り返ったりする場を設定していく。
	響き合い	あいさつと返事で人 と人の心をつなげる	・積極的な声がけや子どもたちとの連携で、相手に伝わる気持ちのよい挨拶を自覚させ、快適な学校生活に向けて取り組んでいるか。 ・「はい」で反応するつながりのよさを実感させる雰囲気作りを進んで行っているか。	・昨年度に比べ、自分からあいさつをしてくれる子、目を見てあいさつをしてくれる子がとても増えたように感じる。「あいさつ名人」の階段でひと月ごとに振り返ることであいさつの意識を継続させることができているように感じる。自分からあいさつできる子どもを増やしていきたい。		○			・あいさつについては、継続的に「あいさつ名人」の自己評価カードを活用し、自分の成長を見つめ直す場をつくり、自己肯定感を高めていきたい。
		よさやちがいを認め 合いながらつなげる	・「プラス言葉」を使い、「寛容」の気持ちで折り合いをつける人権感覚を育てたり、よさを全体に広げたりすることをしているか。 ・違いを認め合いながら、学年や学級の枠を越えて、つながり合う交流活動の機会を設けているか。	・他学年との交流では、上の学年が下の学年へ優しく接する経験をすることで自己有用感を感じることへつながった。 ・自分の思いを素直に発することができる環境があるが、時には人を傷つける言葉が発せられことがある。		○			・教師自身が受容的・共感的言葉がけを心がけ、子どもから出た温かい言葉がけや行動は、その都度褒め、全体に広めていく。 ・他学年との交流の場を意図的に計画し、「かかわるよさ」を積み重ねていく。
	磨き合い	体づくりで健やかさと たくましさにつなげる	・子どもたちが体を動かすことのよさを体感したり、新たなことに挑戦したりして、成長や自信に結びつく取組ができたか。 ・めあてをもって継続的に校庭や体育館で運動に親しんだり、体力向上に取り組めたりすることができたか。（マラソンや縄跳び等）	・校庭や体育館で、仲間と共に体を動かして楽しく遊ぶ子どもたちの姿が多く見られた。 ・前期は、学校全体でめあてをもって継続的に取り組める活動を仕組むことができなかった。		○			・後期は学校全体で「縄跳び」を重点種目として、体育の授業や全校体育で取り組み、体力の向上を図っていく。
		気づき清掃の推進で 奉仕の心につなげる	・「時間いっぱい/すみずみまで/ひざつき」の清掃等、具体的な清掃の方法を指導し、自分から気づいて前よりきれいにすることで、協働することのよさや奉仕の大切さを意識させることができたか。	・具体的な掃除の仕方を提示することで、責任感をもって取り組める子どもたちが増えた。 ・決められたことはできるが、自分から気付いて自主的に取り組む掃除まではできていない。		○			・始まる前のめあて決めから気持ちを切り替えて、取り組めるよう徹底していく。 ・掃除への意識を高められるように、教師が掃除場所のみとどけを行い、よい姿を認める支援を行っていく。
学校運営	地域との連携	地域学習とキャリア教 育で地域とつなげる	・生活科、社会科、総合的な学習等で地域学習を位置付けて、地域の人、もの、ことと関わり合える授業づくりができたか。 ・地域の名人、達人を授業に招き、地域のよさ、人のすばらしさを学んだり、自分の生き方を考えたりする機会となったか。	・生活科や総合的な学習で校外に出て、地域とのつながりをもちながら学習に取り組んでいる学級が増えた。 ・コロナ禍明け直後ということもあり、直接地域の人と接したり、一緒に活動したりまではできていない。			○		・再度、年間カリキュラムを見直し、教科や総合的な学習の中で、地域の方から学べる場の設定をしていく。 ・学校運営委員会の力を借りながら、地域にある「ひと・もの・こと」の発掘及び出会いを探っていきたい。
		共に学校を拓き 信頼関係をつなげる	・学校、学年、学級だよりや学校ホームページ、オクレンジャーでのメール送信等を通して、学校での子どもたちの学びの様子や家庭連絡を保護者や地域に発信することができたか。またうれしかったことや心配なことなど個別に連絡を取ったりすることができたか。	・保護者に対しては、学級・学年だよりの定期的な発行、学校だよりの発行やホームページの更新の回数を増やし、学校の様子をこまめに知らせることができた。 ・学校の情報を地域に知ってもらう有用な方法を考えたい。		○			・信頼関係を築けるように、連絡帳や電話連絡、家庭訪問をし、家庭との情報共有、連携を行っていく。
	教職員の姿勢	教職員集団を学びと 成長へとつなげる	・温かな眼差しで、子どもの変容をゆっくりと待ち、子どもと共に学び、共に成長することができているか。 ・何事も新しい発想で、前向きに、一歩でも前進しようと挑戦を試みようとしているか。	・学年会や部会で、子どもたちの姿を語り合う場を設けたことで、子どもたちの見方が広がり、子どもたち理解の質が高まった。 ・情報共有をする十分な時間の確保が難しい。		○			・一人ひとりの教職員が捉えた子どもの姿を共有できる場をさらに設定し、さらなる子どもたち理解を図っていく。
		あらゆる垣根を越えて チームによる支援体 制へとつなげる	・子どもたちを複数の眼差しで見守り、多面的多角的な捉えで子どもたち理解を深め、よさや可能性を引き出すようにしているか。 ・自分を学級を学年を拓き、喜びや達成感を分かち合い、つながり合いながらチームで支援できるようにしているか。	・学年内でシャッフル給食やシャッフル道徳を行い、多数の職員の目で子どもたちを捉え、よさや可能性について情報共有できた。 ・学年全体での取組や行事を通して、学年内のチームワークを高めることができた。		○			・発達段階や子どもたちの実情に合わせて、学年内の教科担任制を進め、チームとして子どもたちへの支援や子どもたち理解を図っていく。

※評価基準　A…達成できた　B…おおむね達成できた　C…やや達成できなかった　D…達成できなかった